

『チーム学校』体制に応じた教育者養成におけるカリキュラムに関する調査
に関するヒアリング・レポート

聞き取り・文責：小森 伸一

日時：2020（令和2）年1月30日10：00～11：00

対象：十文字学園女子大学 富岡哲也 教授（学科長）・日出間均 教授・狩野浩二 教授

場所：富山先生・研究室

※実施した聞き取りにおいて、あらかじめ用意された質問項目について当該大学に関係するもので、得られた情報を以下に報告するものである。

【はじめに～十文字学園女子大学の概要～】

十文字学園女子大学は、埼玉県に本部を置く私立大学である（所在地：埼玉県新座市菅沢 2-1-28）。1922（大正11）年に創立された文華高等女学校を前身とし、1996（平成8）年に設立された歴史ある女子大学となる。現在は（2019／令和元年度）、下記の一学部9学科で編成されている。

《人間生活学科》

- ・幼児教育学科・児童教育学科・人間発達心理学科・人間福祉学科・健康栄養学科
- ・食物栄養学科・文芸文化学科・生活情報学科・メディアコミュニケーション学科

そして、2020（令和2）年度より以下の3学部9学科に改組されて、装い新たに始動する。

《人間生活学部》

- ・健康栄養学科・食物栄養学科・食品開発学科・人間福祉学科

《教育人文学部》

- ・幼児教育学科・児童教育学科・心理学科・文芸文化学科

《社会情報デザイン学部》

- ・社会情報デザイン学科

現行および新学部・学科の両者において、今回の聞き取り調査にかかわる教職課程に関するのは「幼児教育学科」「児童教育学科」を軸とし、他学科においても教員免許の取得は可能となっている。それらプログラムにおいて取得可能な教員免許・資格等については続く次項を参照されたい。

● 当該大学における教職課程の状況について：

今回の聞き取り時の説明資料として頂戴した大学案内によると（表紙には「採用後担当者様へ」とある）、教職課程の軸となる「幼児教育学科」「児童教育学科」の2学科に加え、教員免許状の取得が可能な他学科について作表したものが表1である。「取得できる資格」及び「主な就職先」の2観点から整理した（なお、教諭免許状＜取得できる資格＞及び教職に関わる職種＜主な就職先＞については太文字で示している。また参考として、教育支援職に関わる資格および職種として考えられる可能性のものには下線を引いた）

小学校教員の養成は、当該大学においては主として児童教育学科が担ってきた。各学年の構成学生は90名ほどとなるが、最近では教職に就くのは約半分くらいとのことである。

（表1）

学科名	取得できる資格	主な就職先			
幼児教育	・ 幼稚園教諭一種免許状 ・ <u>保育士資格</u>	[幼稚園教諭]	44.3%	[保育士]	42.3%
		[営業・販売]	5.1%	[総合職]	2.2%
		[一般事務]	2.2%	[サービス]	1.1%
		[その他]	1.7%		

児童教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教諭一種免許状 ・幼稚園教諭一種免許状 ・特別支援学校一種免許状 (知・肢・病) ・中学校教諭一種免許状(英語) ・高等学校教諭一種免許状(英語) 	[小学校教諭] 47.4% [幼稚園教諭] 19.3% [特別支援教諭] 14.0% [社会福祉事務員] 7.0% [一般事務] 5.3% [サービス] 3.4% [高等学校教諭] 1.8% [総合職] 1.8%
人間発達心理	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭一種免許状 ・中学校教諭一種免許状(保健) ・高等学校教諭一種免許状(保健) ・認定心理士資格 ・こどもサポーター(こころ支援) ・ピアヘルパー 	[一般事務] 22.3% [営業・販売] 21.3% [養護教諭] 20.2% [サービス] 9.6% [社会福祉事務員] 8.5% [総合職] 6.4% [SE・PG等] 6.4% [その他] 5.3%
健康栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭一種免許状(保健体育) ・高等学校教諭一種免許状(保健体育) ・栄養教諭二種免許状 ・健康運動指導士認定試験受験資格 ・栄養士免許 ・フードコーディネーター3級 	[栄養士] 39.8% [営業・販売] 21.5% [サービス] 16.1% [一般事務] 11.8% [総合職] 4.3% [SE・PG等] 3.2% [中学校教諭] 1.1% [その他] 2.2%
文芸文化	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教諭一種免許状(国語) ・高等学校教諭一種免許状(国語) ・学校図書館司書教諭 ・学芸員資格 	[営業・販売] 45.5% [一般事務] 36.4% [SE・PG等] 6.1% [図書館司書] 3.0% [その他] 9.0%
食物栄養	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭一種免許状 ・管理栄養士国家試験受験資格 ・栄養士免許 ・フードスペシャリスト認定試験受験資格 ・健康運動指導士認定試験受験資格 ・第一種衛生管理者免許 	[栄養管理士・栄養士] 61.1% [一般事務] 8.7% [営業・販売] 15.5% [総合職] 6.3% [SE・PG等] 1.6% [サービス] 5.6% [商品開発] 0.8% [その他] 0.8%
生活情報	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校教諭一種免許状(情報) ・上級情報処理士 ・ウェブデザイン実務士 ・医療コンピュータ技能検定(医療事務) ・MOS/インターネット検定 ・ITパスポート ・日商簿記検定 ・繊維製品品質管理士(TES) ・リテールマーケティング(販売士) 	[一般事務] 40.5% [SE・PG等] 32.4% [営業・販売] 17.6% [サービス] 4.1% [総合職] 2.7% [その他] 2.7%

- 教育支援職(狭義には、SC、SSW、事務職員、中義には、加えて社会教育施設等職員、広義には、部活指導員、芸術関係支援員、ICT支援員、教育関連企業社員、企業内教育関連部署社、等)の養成の意図や今後の計画はあるか、学内議論はあるか、またその内容について：

学内において、特別にこの点に焦点を当てた議論がとくにあるわけではないが、「チーム学校」の視点を意識した学科の枠を超えた連携は必要かつ重要であることは認識しているとのことであった。

たとえば、令和2年度から新設される教育人文学部内の文芸文化学科では、日本語教育が開始されるとのこと。これは、近年増えてきている日本語がうまく話せない外国人児童の課題に応じた教育支援の観点が含まれた取り組みの一端である。教育人文学部は、他には幼児教育、児童教育、心理の3学科を交えた全4学科によって構成されるが、この新設される教育系学部の4学科において、今日的教育課題を見据えながら学科を横断した連携を深めていきたいとは思っていると話していた。

しかし実際のところは、そのような点に留意したカリキュラム編成については、現行および新設学部・学科においても、今のところはより実際的には施されているわけではないとのことである。

- 教育支援職への志望、就職実績の現状について：

当該大学において教育支援職にかかわる学科としては、上掲「表1」にはない学科として「人間福祉学科」がある。表2は、表1と同様に人間福祉学科における「取得できる資格」及び「主な就職先」を示している(教育支援職に関わる資格及び職種の可能性があると考えられるものには下線を引いている)。

実際のところ、資料としていただいた教育支援職と考えられる就職先一覧リストによると（平成 29 / 30 年度の 2 年間実績）、幼児教育学科（2 人）、児童教育学科（6 人）、人間発達心理学科（15 人）、文芸文化学科（1 人）、人間福祉学科（37 人）からの卒業生が教育支援職に正規職員として就職している。記載した人数（括弧内）をみても分かるように、人間福祉学科からの出身者がもっとも多く、次いで人間発達心理学科の卒業生が教育支援職に就いている。

職種としては「児童指導員」、「放課後児童支援員」、「社会福祉士／福祉職」、「(就労・障害者等) 支援員」、「生活支援員」、「相談職」、「総合職（学校事務等）」、「図書館司書（非常勤）」、「医療ソーシャルワーカー」などであった。中でも、「児童指導員」や「放課後児童支援員」がもっとも多い。

(表 2)

学科名	取得できる資格	主な就職先
人間福祉	《社会福祉・介護福祉コース》	
	・ <u>社会福祉士</u> （国家試験受験資格）	[福祉専門職] 73%
	・ <u>介護福祉士</u> （国家試験受験資格）	
	・ <u>社会福祉主事</u> （任用資格）	
	・ <u>児童指導員</u> （任用資格）	[保育士] 17.5%
	・ 身体障害者福祉司（任用資格）	
	・ 知的障害者福祉司（任用資格）	[営業・販売] 4.7%
	《社会福祉・保育コース》	
	・ <u>社会福祉士</u> （国家試験受験資格）	[総合職] 1.6%
	・ <u>保育士資格</u>	
・ <u>社会福祉主事</u> （任用資格）	[一般事務] 1.6%	
・ <u>児童指導員</u> （任用資格）		
・ 介護職員初任者研修	[その他] 1.6%	
・ 身体障害者福祉司（任用資格）		
・ 知的障害者福祉司（任用資格）		

● **教育支援職養成における教育単科大学、教育学部への要望。**

東京学芸大学が平成 27 年度に改組を行い、これまでの教養系（ゼロ免課程）が教育支援系へと変わっていて、すでに昨年度（平成 30 年度）にその卒業生を輩出していることは、今回の機会でそのことを聞くまで知らなかったということであった。どのようなカリキュラムで、どのような人材を輩出しているのかについては関心があると言っていた。

● **教員養成カリキュラム編成における、「チーム学校」時代（教育支援職との協働を前提とした職能形成）の教員の資質能力育成に対する取り組みの現状。**

当該大学においては、「チーム学校」を意識した教員の資質能力を育成するための特化したカリキュラムがとくに用意されているわけではない。しかしながら、限られてはいるもののその点に関する授業科目として「教職入門 A」（1 年必修）および「学校経営と学校図書館」（2 年必修／選択）の 2 つの授業についての説明があった。前者は児童教育学科に、後者は文芸文化学科内の司書教諭課程に開設されている。

前者の「教職入門 A」では、9 回目に「チームとしての学校の在り方」が設置されており、これはまさに「チーム学校」が主題となっている単元といえるであろう。現代の教育課題としての地域協働の必要性について取り上げているという話であった。

また後者の「学校経営と学校図書館」の授業は、主として司書教諭資格をとるための必修授業で、学校図書館経営の基本的事項を学ぶ科目である。しかしながら、単に学校内での図書室運営を学ぶのではなく、これからのその運営においては、司書教諭は図書館での学びが学校外部となる地域と学校をどのように結び付けていくかという視点をもつことの大切について考える内容も含まれていると説明があった。そのような他との協働的な観点が含まれていることから、授業は講義を基本とするものの、学生同士のディスカッションやグループワークなどの演習的、いわばアクティブラーニング方法も取り入れて実施されていることであった。

- 教員養成カリキュラムにおける、教育方法に関する特徴的な取り組み（現状・今後の意見として）や、可能性と課題に関して。

当該大学における教員養成の大きな特徴として、地域の教師を地域で育成する「学校インターンシップ」を実施していることであろう。これは、4年次の教育実習以前にも、その実習とは別に近隣の自治体との連携において、1年次から小学校に入って児童たちと接し、学校現場や教職を感じるする機会をもつ取り組みである。1年次に10日間、2年および3年次にそれぞれ15日間プラスアルファの期間、そして4年次での4週間の教育実習へとつなげる一連のプロセスとなっている。そうすることで、教職へのモチベーションの維持向上や、理解を深めることにつながっていく、つなげていくということであった。一方で、当然現場で上手くできず配慮が必要な学生もでてくることから、教員がその対応に追われるという課題もあると話されていた。

- 教員養成カリキュラムの検討に関しての、教育単科大学、教育学部への要望。

東京学芸大学において、本年度（令和／2019年度）から始まった大学院組織の改革についても知らなかったそうである。教職大学院が大幅に拡充されて、広く人材が募集されているということを知り、是非、自分のところの学科で教職を目指し、大学院進学（教職大学院）を志望する学生を紹介したいとのことであった。

実際、今年度（令和元年度）において、そのような教員志望で大学院進学を選択肢に入れていた学生がいたそうである。その学生は埼玉県の小学校の教員採用試験を受けて採用となった。現在は、採用試験に受かった場合でも、大学院に進学する場合は、修了までの2年間の猶予期間を設けている自治体が多い（確か埼玉県もそのような制度をとっている）。その学生の場合で考えれば、教員採用試験と教職大学院の両方を受けたとして、両方に合格となれば、進学もして教職への知識・実践をより深めた上で2年後に先生になるという道ができるわけで大きなメリットとなるであろう。

今後も同様なケースが考えられるため、学芸大学の教職大学院の情報を拾いつつ、かつ連携を深められたら良いということと話されていた。すなわち、学芸大への要望としては、今後も広く教員養成に関わる大学への情報発信をしてもらいたいということであった。